

一 般 質 問 通 告 書

令和 8 年 8 月 1 9 日

高島市議会議長 河越 安実治 様

高島市議会議員 3 番 吉里 浩恵

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が 2 以上ある場合は、次のどちらかに○をつけてください。

- ・ 質問番号 1 の用紙にだけご記入ください。
- ・ 質問が一つだけの場合は必然的に 1 となりますので、記入は不要です。

初問は { 1. 全項目一括質問一括答弁
②. 項目ごとに一括質問一括答弁

(質問番号 3) 発 言 事 項	高島市農業の高度化に向けた戦略的な政策展開について
要 旨 (項目だけでなく、質問の趣旨が理解できるように記入してください。)	
高島市はこれまで、中山間地域農業の維持・振興をはじめ、認定農業者や新規就農者への支援、地域計画の策定など、持続可能な農業の実現に向けた様々な施策を展開してきた。また、本市の基幹産業である農業を守り育てるため、担い手の育成や農地の保全など、着実に取組を進めてきたことは高く評価している。 一方で、農業を取り巻く環境は大きく変化している。農業従事者の高齢化や担い手不足に加え、異常気象、資材価格の高騰などにより、生産性の向上と省力化を両立した持続可能な農業への転換が求められている。 国は「経済財政運営と改革の基本方針2026（骨太の方針2026）」において、スマート農業を食料安全保障の強化や農業の成長産業化を支える重要な施策として位置付け、AI、ICT、ロボット技術、ドローン等を活用した農業への転換を推進している。 私は先般、福島県会津若松市及び栃木県さくら市を行政視察した。 会津若松市では、スマート農業を単なる先進機械の導入ではなく、地域農業	

が抱える課題を解決するための戦略として位置付け、実証から普及、人材育成までを一体的に進める体制が構築されていた。

また、さくら市では、個々の補助制度や事業ごとに予算を管理するのではなく、「農業振興」という大きな政策目標のもとで予算を編成し、担当部署が事業効果を検証しながら、必要な施策へ柔軟に予算を配分する仕組みが構築されていた。限られた財源の中で最大限の成果を生み出す仕組みが構築されていたとして、大変参考になる取組であった。

高島市においても、これまで積み重ねてきた農業施策を土台としながら、スマート農業をはじめとする新たな技術や手法を取り入れ、高島市農業の高度化に向けた戦略的な政策展開を図る時期に来ているのではないかと考える。

そこで、以下の点について伺う。

① 高島市農業の現状と今後の方向性について

これまで本市が取り組んできた農業施策について、どのような成果と課題があると認識しているのか。また、高島市農業の将来を見据え、今後どのような方向性で農業政策を展開していく考えか。

② スマート農業の位置付けについて

国がスマート農業を重要な成長戦略として推進する中、本市としても、高島市農業の高度化を図るための重要な施策としてスマート農業をどのように位置付けているのか。また、実証事業や人材育成、導入支援などを進める考えはあるのか。

③ 推進体制について

会津若松市では、行政、農業者、JA、研究機関、民間企業等が連携し、スマート農業を実証から普及まで一体的に推進していた。本市においても、多様な関係機関と連携した推進体制を構築する考えはあるのか。

④ 戦略的な農業政策の推進について

さくら市では、「農業振興」という政策目標のもとで、事業効果を検証しながら予算を柔軟に配分する仕組みが構築されていた。本市においても、個々の事業を積み重ねるだけではなく、施策全体を一体的にマネジメントしな

がら、効果検証を踏まえて事業や予算を柔軟に見直していく戦略的な政策展開が必要と考えるが、市の見解を伺う。

⑤本質問は、スマート農業という一つの施策の導入を求めるものではない。これまで高島市が積み重ねてきた農業施策を評価した上で、その成果をさらに発展させるため、高島市農業の将来像を明確に描き、その実現に向けて施策を戦略的・一体的に展開していく政策へと発展させることを提案するものである。

市長が描く高島市農業の将来ビジョンと、その実現に向けた戦略的な政策展開について伺う。